

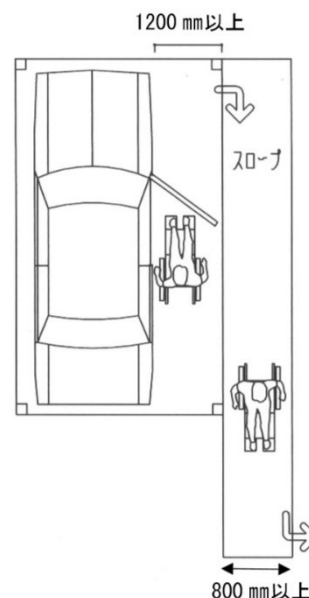
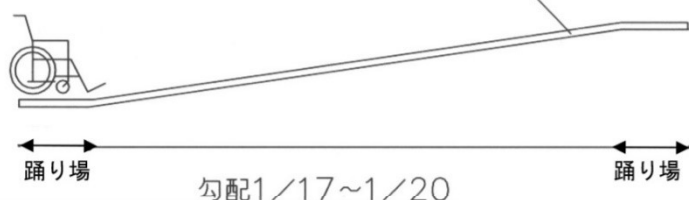
(3) 駐車場

頸髄損傷者にとって自動車は生活の幅を広げる有効なアイテムです。自力で自動車の運転を行う場合には、乗降のために扉が全開できるスペースの確保が必要です。また、悪天候時を考慮して駐車場からの家屋内へのアプローチも含めた雨よけがあれば理想です。介助で自動車を使用する場合にも、扉を開けて乗降の介助を受けるスペースも必要です。

① スペース・配置

駐車場の配置は、利用する家屋の出入り口に近い場所に設けることが理想です。自力で乗り降りを行う場合には、扉を開いておくためのスペース(1200 mm程度)が必要となります。介助で使用する場合にも、介助する場所(横・後ろ)のスペースの確保を念頭に置きます。駐車場から屋内へのアプローチが安全に行える動線の確保も必要です。自室横に駐車場を配置した例もあります。

片側があいているときは、車輪が落ちないように5cm立ちあげる。



② 集合住宅や賃貸住宅

新築マンションを購入する際には早期に駐車場の確保を行って、駐車場から屋内への良好な動線の確保や理想的な改修ができた例もあります。賃貸住宅の場合も同様に、自動車扉の開口スペースの確保や悪天候時の対策の評価が必要です。ビルタイプの住居では1階が駐車場になっていることもあります。また、駐車場から屋内までの移動の評価や雨天時に自力で駆動できるかどうかを確認します。



建物1階の駐車スペース

(4) 自室

自室は車椅子の取り回し・福祉機器の使用場所・収納・ベッドスペース・家族との共用などを考慮しながら、それぞれの配置を検討します。扉の交換や床材の変更、冷暖房の設置が必要になることもあります。

① 配置

まずは非常時の避難経路を配慮します。戸建てでは1階に配置させることが望ましいです。2階以上に自室を設ける際には、車椅子のまま乗降できるような機器の確保が必要です。浴室やトイレは自室の近くに配置できる動線が理想です。

② 間取り

ベッドやトランスファーボードなどの福祉用具の使用や、車椅子の移動範囲を考慮し、12～13㎡(京間で8畳程度)以上の確保が理想です。また、リフトなどの可動式の機器を使用する際の動線にも配慮します。広すぎると冷暖房の効きが良くないこともあります。ベッドの配置を想定して、ベッド周囲には介助スペースや諸動作を行うスペースも確保します。



③ 床素材

床面はフローリングであれば車椅子の移動が容易です(畳の場合はフローリング素材のカーペットを敷く方法もあります)。

④ 冷暖房

冷暖房の設置は欠かせません。冬場は床暖房の使用も効果的です。



自室のプラットホーム

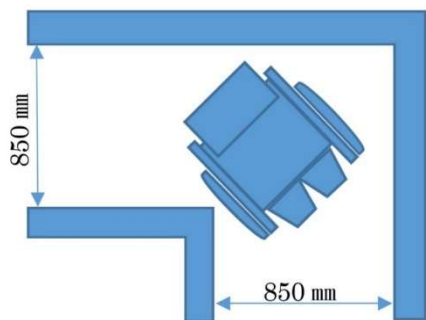
⑤ その他

スペースに余裕があり、自主訓練などに使用できるプラットホームを設置した例もあります。

(5) 屋内移動

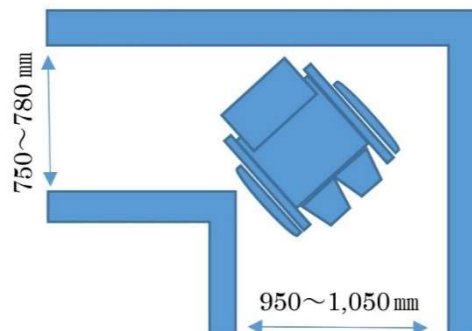
- ・車椅子が通過する幅として 750 mm～800 mm以上の確保が理想（電動の場合はそれ以上のこともある）。
- ・廊下を直角に通過できるかの確認をする（実際に動作の確認を行うことが理想）。
- ・使用する各部屋の出入りも確認する。
- ・アパートやマンションの場合は最低でも 750mmの幅員を確保。

① 廊下を直角に曲がる(A)



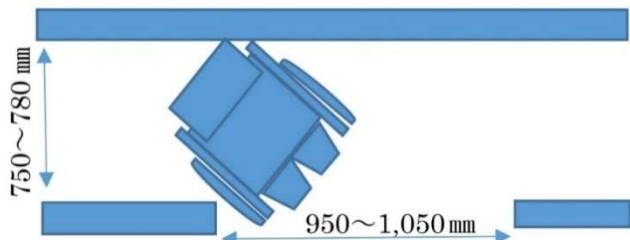
廊下を直角に曲がる場合には、直進時(750～800 mm以上)よりも広い幅の確保が必要です。直角部分の前後とも、廊下の幅を 850 mm以上確保する必要があります。

② 廊下を直角に曲がる(B)



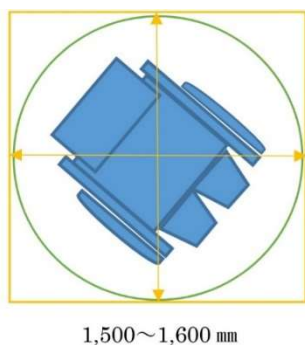
直角に曲がった通路の一方を直進時の最低幅である 750 mm に抑えると、もう一方の幅は 950～1,050 mm 程度必要になります。

③ 廊下から部屋に入る



各部屋の出入り口の有効開口幅を 950 mm以上確保できるように設計すると実用的です。

④ 回転



室内で回転するスペースの最低寸法は、回転円の直径が 1,500 mm～1,600 mm程度です。

